

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成16年8月26日(2004.8.26)

【公表番号】特表2001-520633(P2001-520633A)

【公表日】平成13年10月30日(2001.10.30)

【出願番号】特願平9-507823

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 35/26

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 35/14

A 6 1 P 13/08

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/04

C 0 7 K 7/06

// A 6 1 K 39/00

【F I】

A 6 1 K 35/26 Z N A

A 6 1 K 35/12

A 6 1 K 35/14 C

A 6 1 P 13/08

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 37/04

C 0 7 K 7/06

A 6 1 K 39/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成15年7月28日(2003.7.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成15年7月28日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第507823号

2. 補正をする者

名称 ノースウエスト バイオセラピューティクス,
インコーポレーテッド

3. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門1丁目17番1号

虎ノ門5森ビル3階

電話番号 03(3503)8637

氏名 (9109) 弁理士 平 木 祐 輔

4. 補正対象書類名

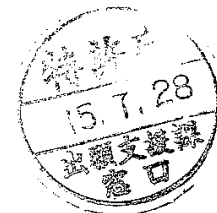
請求の範囲

5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

(1) 本願請求の範囲を別紙の通り補正する。

方 式
審 査

(別紙)

請求の範囲

1. 活性化T細胞の調製方法であって、ヒト樹状細胞を前立腺抗原にin vitroで暴露すること、および前立腺抗原に暴露されたヒト樹状細胞にT細胞をin vitroで暴露することを含み、但し該活性化T細胞は、その有効量を癌増殖阻害応答を必要としている前立腺癌患者に投与することにより、癌増殖阻害応答を生じさせるために用いられる、前記方法。
2. 前立腺抗原が、LNCaP細胞の溶解物、LNCaP細胞の膜調製物、前立腺癌患者の前立腺癌細胞の溶解物、前立腺癌患者の前立腺癌細胞の膜調製物、精製された前立腺特異的膜抗原 (PSMA)、アミノ酸配列LLHETDSAV (配列番号1) を有するペプチド、アミノ酸配列ALFDIESKV (配列番号2) を有するペプチド、アミノ酸配列XL (またはM) XXXXXXV (またはL) (配列番号3) を有するペプチド [ここで、Xは任意のアミノ酸を表す]、精製された前立腺特異的抗原 (PSA)、およびモノクローナル抗体PD41によって認識される精製された前立腺ムチン抗原からなる群から選択される、請求項1に記載の方法。
3. 前立腺抗原が、
WLCAGALVL (配列番号4) ; VLAGGFLL (配列番号5) ; ELA
HYDVLL (配列番号6) ; NLNGAGDPL (配列番号7) ; TLRVDCT
PL (配列番号8) ; VLRMMNDQL (配列番号9) ; PMFKYHLTV (配
列番号10) ; NMKAFLDEL (配列番号11) ; LMYSLVHNL (配列番号12
) ; MMNDQLMFL (配列番号13) ; EGDLVYVNY (配列番号14) ; AG
DPLTPGY (配列番号15) ; RVDCTPLMY (配列番号16) ; LFEP
PPGY (配列番号17) ; TYELVEKFY (配列番号18) ; AGESFPGIY
(配列番号19) ; WGEVKRQIY (配列番号20) ; IVRSFGTLKKE (配
列番号21) ; DELKAENIKKF (配列番号22) ; KSLYESWTKKS (配
列番号23) ; AYINADSSI (配列番号24) ; KYADKIYSI (配列番号25
) ; GYYDAQKLL (配列番号26) ; TYSVSFDSL (配列番号27) ; NY
ARTEDFF (配列番号28) ; LYSDPADYF (配列番号29) ; LPSIPV
HPI (配列番号30) ; SPSPEFSGM (配列番号31) ; VLVHPQWUL
(配列番号32) ; KLQCVDLHV (配列番号33) ; ALPERPSLY (配列番
号34) ; JVGWECEK (配列番号35) ; QVHPQKVTk (配列番号36) ;
VVHYRKWIK (配列番号37) ; CYASGWGSI (配列番号38) からなる群
から選択される、請求項1に記載の方法。
4. 前立腺抗原がPSMAである、請求項2に記載の方法。
5. ヒト樹状細胞が、上記前立腺癌患者の皮膚、脾臓、骨髓、胸腺、リンパ節または末梢血から得られたものである、請求項1に記載の方法。
6. ヒト樹状細胞が末梢血から得られたものである、請求項1に記載の方法。
7. ヒト樹状細胞が寿命の延長された樹状細胞である、請求項1に記載の方法。
8. 前立腺抗原に暴露されたヒト樹状細胞が、凍結保存され、融解され、そして回収されたものである、請求項1に記載の方法。
9. T細胞が上記前立腺癌患者から得られたものである、請求項1に記載の方法。
10. T細胞が、上記前立腺癌患者とHLAが一致した健常人から得られたものである、請求項1に記載の方法。
11. 前立腺癌患者が転移性前立腺癌に罹患している、請求項1に記載の方法。
12. T細胞が、精製されたCD8+ T細胞、またはCD4+ T細胞とCD8+ T細胞との混合集団を含む、請求項1に記載の方法。
13. ヒト樹状細胞を前立腺抗原にin vitroで暴露することを含む、癌増殖阻害応答を生じさせるために用いられるヒト樹状細胞の調製方法であって、但し調製されるヒト樹状細胞は、その有効量を癌増殖阻害応答を必要としている前立腺癌患者に投与する

ことにより、その投与後に前立腺癌に対する免疫応答を誘導するかまたは既存の免疫応答を増強するものである、前記方法。

- 1 4. 前立腺抗原が、LNCaP細胞の溶解物、LNCaP細胞の膜調製物、前立腺癌患者の前立腺癌細胞の溶解物、前立腺癌患者の前立腺癌細胞の膜調製物、精製された前立腺特異的膜抗原 (PSMA)、アミノ酸配列LLHETDSA V (配列番号1) を有するペプチド、アミノ酸配列ALFDIESKV (配列番号2) を有するペプチド、アミノ酸配列XL (またはM) XXXXXXV (またはL) (配列番号3) を有するペプチド [ここで、Xは任意のアミノ酸を表す]、精製された前立腺特異的抗原 (PSA)、およびモノクローナル抗体PD41によって認識される精製された前立腺ムチン抗原からなる群から選択される、請求項13に記載の方法。
- 1 5. 前立腺抗原が、
WLCAGALVL (配列番号4) ; VLAGGFLL (配列番号5) ; ELA
HYDVLL (配列番号6) ; NLNGAGDPL (配列番号7) ; TLRVDCT
PL (配列番号8) ; VLRMMNDQL (配列番号9) ; PMFKYHLTV (配
列番号10) ; NMKAFLDEL (配列番号11) ; LMYSLVHNL (配列番号12
) ; MMNDQLMFL (配列番号13) ; EGDLVYVNY (配列番号14) ; AG
DPLTPGY (配列番号15) ; RVDCTPLMY (配列番号16) ; LFEPPP
PGY (配列番号17) ; TYELVEKFY (配列番号18) ; AGESFPGIY
(配列番号19) ; WGEVKRQIY (配列番号20) ; IVRSFGTLKKE (配
列番号21) ; DELKAENIKKF (配列番号22) ; KSLYESWTKKS (配
列番号23) ; AYINADSSI (配列番号24) ; KYADKIYSI (配列番号25
) ; GYYDAQKLL (配列番号26) ; TYSVSFDL (配列番号27) ; NY
ARTEDFF (配列番号28) ; LYS DPADYF (配列番号29) ; LPSIPV
HPI (配列番号30) ; SPSPEFSGM (配列番号31) ; VLVHPQWUL
(配列番号32) ; KLQCVDLHV (配列番号33) ; ALPERPSLY (配列番
号34) ; JVGWCECK (配列番号35) ; QVHPQKVT (配列番号36) ;
VVHYRKWIK (配列番号37) ; CYASGWGSI (配列番号38) からなる群
から選択される、請求項13記載の上記方法。
- 1 6. 前立腺抗原がPSMAである、請求項13に記載の方法。
- 1 7. ヒト樹状細胞が、上記前立腺癌患者の皮膚、脾臓、胸腺、骨髄、リンパ節または末梢血から得られたものである、請求項13に記載の方法。
- 1 8. ヒト樹状細胞が末梢血から得られたものである、請求項13に記載の方法。
- 1 9. ヒト樹状細胞が、上記前立腺癌患者とHLAが一致した健常人から得られたものである、請求項13に記載の方法。
- 2 0. ヒト樹状細胞が寿命が延長された樹状細胞である、請求項13に記載の方法。
- 2 1. 調製されるヒト樹状細胞が、前立腺癌患者に投与される前に、凍結保存され、その後融解される、請求項13に記載の方法。
- 2 2. 前立腺癌患者が転移性前立腺癌に罹患している、請求項13に記載の方法。
- 2 3. 前立腺抗原にin vitroで暴露されたヒト樹状細胞を有効量にて含む、前立腺癌患者において癌増殖阻害応答を生じさせるためにT細胞を活性化するための組成物。
- 2 4. 前立腺抗原にin vitroで暴露された後に凍結保存されている単離されたヒト樹状細胞を含む組成物。
- 2 5. ヒト樹状細胞が、LNCaP細胞の溶解物、LNCaP細胞の膜調製物、前立腺癌患者の前立腺癌細胞の溶解物、精製された前立腺特異的膜抗原 (PSMA)、アミノ酸配列LLHETDSA V (配列番号1) を有するペプチド、アミノ酸配列ALFDIESKV (配列番号2) を有するペプチド、アミノ酸配列XL (またはM) XXXXXXV (またはL) (配列番号3) を有するペプチド [ここで、Xは任意のアミノ酸を表す]、精製された前立腺特異的抗原 (PSA)、およびモノクローナル抗体PD41によって認識される精製された前立腺ムチン抗原からなる群から選択される前立腺抗原に暴露された後に、凍結保存されたものである、請求項23または24記載の組成物。

26. 前立腺抗原が、

WLCAGALVL (配列番号4) ; VLAGGFFLL (配列番号5) ; ELAH
YDVLL (配列番号6) ; NLNGAGDPL (配列番号7) ; TLRVDCTP
L (配列番号8) ; VLRMMNDQL (配列番号9) ; PMFKYHLTV (配列
番号10) ; NMKAFLDEL (配列番号11) ; LMYSLVHNL (配列番号12
) ; MMNDQLMFL (配列番号13) ; EGDLVYVNY (配列番号14) ; AG
DPLTPGY (配列番号15) ; RVDCTPLMY (配列番号16) ; LFEPPP
PGY (配列番号17) ; TYELVEKIFY (配列番号18) ; AGESFPGIY
(配列番号19) ; WGEVKRQIY (配列番号20) ; IVRSFGTLKKE (配
列番号21) ; DELKAENIKKF (配列番号22) ; KSLYESWTKKS (配
列番号23) ; AYINADSSI (配列番号24) ; KYADKIYSI (配列番号25
) ; GYYDAQKLL (配列番号26) ; TYSVSFDSL (配列番号27) ; NY
ARTEDFF (配列番号28) ; LYSDPADYF (配列番号29) ; LPSIPV
HPI (配列番号30) ; SPSPEFSGM (配列番号31) ; VLVHPQWUL
(配列番号32) ; KLQCVDLHV (配列番号33) ; ALPERPSLY (配列番
号34) ; JVGGECEK (配列番号35) ; QVHPQKVTk (配列番号36) ;
VVHYRKWIK (配列番号37) ; CYASGWGSI (配列番号38) からなる群
から選択される、請求項23または24に記載の組成物。

27. ヒト樹状細胞が寿命の延長された樹状細胞である、請求項23または24に記載の組成物。